

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌

花



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

— R I K K A —

2015.AUTUMN [No.14]

新潟大学

授業紹介 -教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

シリーズ「恩師と語らう」

注目される研究報告

Campus Information

新潟大学病院 外来棟

特集

医歯学総合病院

「質の高い医療と
人材育成」

今回の表紙は、新潟医療育成センターの高橋センター長と災害医療などに携わるスタッフの皆さんに、新潟大学医歯学総合病院の前に並んでもらって撮影。彼らのように地域社会に貢献するプロフェSSIONアルが、新潟大学にはたくさんいるのです!



CONTENTS

03 特集 医歯学総合病院 「質の高い医療と 人材育成」

08 授業紹介 - 教育の現場 -

09 Enjoy! 学生ライフ

10 シリーズ「恩師と語ろう」

11 注目される研究報告

12 Campus Information

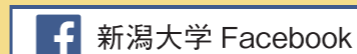
『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

公式Facebookページ更新中!



本学ホームページからアクセスしてください。

ホームページで発信するニュースのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信しています。多くの皆さまの「いいね!」をよろしくお願いいたします。

医歯学総合病院 「質の高い医療と 人材育成」

再開発工事を終えた新潟大学医歯学総合病院。医療や人材育成を通し、地域社会へ貢献しています。その取組について病院長に語っていただきました。

来院者の利便性が向上
質の高い医療を提供し
次世代の医療人を育成する

——新潟を訪れる機会の少ないOB・OGの中には、新しくなった医歯学総合病院に驚かれる方もきっと多いと思います。平成24年11月に外来診療棟が完成し、周辺の環境整備を経て、昨年、病院再開発が終了しました。コーヒーションやレストランなどが入ったアメニティモールや、路線バスの乗り入れもできる送迎用ロータリー、外来駐車場の整備などは表から見える大きな変化ですね。また、斜面に立つ病院ゆえに、病棟と外来の入口で階層が違うという分かりにくさも、外来玄関のある階を「エントランス階」という名称にし、案内表示を充実させることで以前より改善されました。来院される方の

利便性は確実に向上していると思っています。ただし、施設がきれいになり、使いやすくなっても、新潟地域における大学病院の役割や基本的な考え方はまったく変わりません。本院の理念は、「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」というもの。患者さんに良質な医療を提供するとともに、良識と専門知識を持った医療人を育てる県内唯一の機関であるという責任があります。診療面ではPET・CTや手術支援ロボットを導入により、これまでできなかった診療ができるようになり、教育面でも次世代医療人を育成するさまざまな取組が行なわれています。——病院の重点目標には、人材育成と地域貢献も掲げておられますね? 超高齢社会に対応できるような人材を育てるよう、学部生はもちろ

「患者さんにやさしい
高度医療の提供」が
人材育成や研究の発展に
繋がります

新潟大学医歯学総合病院
鈴木榮一 病院長



んど職種・他大学と連携して地域医療やコミュニケーションの現場でフィールドワークを積極的に行っています。また、医学部に災害医療教育センターを立ち上げ、災害発生直後から復興するまでの長いスパンに関わる支援ができる人材も大学として育てています。病院関係者だけでなく、行政などに関わる人たちとも協力して育成していこうと考えています。

えでしょうか? 診療・教育・研究という基本的な機能を果たす一方で、昨今の病院を取り巻く情勢からはしっかりと経営基盤も求められます。そのため「患者さんにやさしい高度医療の提供」が本院の第一の使命になっていくと考えています。高度な診療により患者さんの身体への負担が少ない手術ができるようになり、それは入院期間の短縮に繋がるだけでなく、健全な病院経営や地域の要請に応えることにも繋がる。多方面により高いことがあはらずです。つまり高度な医療は学生教育や社会貢献、財政基盤や研究発展にも結び付いていく。すべてが関連していく

のです。病院の経営が安定し、収益が上がれば、新しい研究や教育のための設備投資や施策ができる。診療はさらに充実し、教育や研究もレベルアップすることで、世界に通用し地域に貢献できる人材を育てることができるようになります。大学病院が若い医療人を育てることにより、卒業後も優秀な人材が集まってくるという状況が作れます。そうなれば新しい研究が発信できるし、それが新潟大学の魅力になると思っています。患者さんにとっていい病院であるとともに、職員にとっても働き甲斐のある病院でありたいというのが私の今後の医歯学総合病院に対する考え方です。

医歯学総合病院の 現在の姿

平成24年11月の外来診療棟の新営・開院をもって生まれ変わった本院。新しく加わった最新の設備や取組など、注目の話題を紹介いたします。

最新ピック < ドクターヘリの導入

新 新潟県からの要請を受け、平成24年10月に本院を基地病院として、ドクターヘリが運航を開始しました。新潟県には救命救急センター(3次救急医療機関)に救急搬送されるまでに60分以上を要する地域が存在しますが、このドクターヘリの導入により、救急医療の専門医、看護師を救急現場に投入し、いち早く初期治療を開始することが可能となり、更に救急搬送時間の短縮により、救命率の向上や後遺症の軽減に貢献しています(平成26年度の出勤実績は要請603件、出勤450件、応需率75%)。



最新ピック < 環境整備 (アメニティモール等の整備、バス乗り入れ、駐車場整備)



平 成24年11月に開院した外来診療棟前の基幹環境整備が平成26年6月をもって完了しました。患者用駐車場、外来診療棟玄関前の送迎用ロータリー、コンビニやレストラン等が入ったアメニティモールが整備され、平成26年8月からは新潟交通バスの乗り入れも始まり、来院される方の利便性が向上しました。

病院データ (平成26年度実績)

- 所在地: 新潟市中央区旭町通1番町754番地
- 開院: 平成15年10月※
- 診療科数: 33診療科(医科29科、歯科4科)
- 病床数: 825床(稼働率88.5%)
- 外来患者数: 2,257名(1日平均)
- 入院患者数: 730名(1日平均)
- 手術件数: 7,149件(年間)

※医学と歯学の両面からの緊密な連携による全人的医療の充実と、今後の医療ニーズと多くの課題に的確に対応することを目指し、医学部附属病院と歯学部附属病院が統合しました。

最新ピック < ダ・ヴィンチの導入

平 成26年2月に最新鋭の内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」を導入しました。ダ・ヴィンチを用いた手術において、術者は患部の3D画像を見ながら、患部の切除や縫合を行います。開腹手術に比べて、手術中の出血量の減少、手術後の疼痛の軽減、合併症リスクの低減といったメリットがあります。当院では、当面、前立腺がんに対する前立腺摘出手術を対象としますが、その他の疾患についても、今後対応していく予定です。



最新ピック < PET-CTの稼働

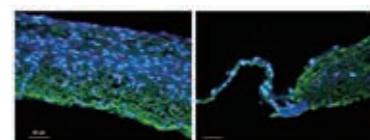
P ETは細胞の活動具合を調べることで、CTでは判別が難しいがんも確認可能。PET-CTは一回の検査でPET画像とCT画像を重ねたわずれが少ない融合画像を作ることができるため、早期発見が可能となり、診断精度がより一層向上します。



最新ピック < 再生医療への取組

本 院では、基礎研究で培った高度な技術を実臨床に反映させるために生命科学医療センターを設置し、専門の教員を配置することで、各診療科が行なう再生医療の臨床研究を推進し、各種疾患の治療に成果をあげています。これまでに100件を超える再生医療を実施し、特に歯科領域では日本でトップクラスの経験数(症例数)を有します。

左図の幹細胞用培地で培養した骨膜シートの断面では、右図の通常培地の場合と比べて、顕著な細胞の重層化(青色)とコラーゲンの蓄積(緑色)が観察されることから、歯周再生治療においてより高い治療効果が期待されます。



診療科	臨床研究内容
循環器内科	末梢動脈疾患における血管の再生医療
口腔再建外科	口腔がん、舌がんの手術により失われた口腔粘膜の再生医療
歯周病科	歯周病により失われた歯槽骨の再生医療
顎顔面口腔外科 インプラント治療部	加齢により消失した顎骨のインプラント治療を可能にする顎骨再生医療

(平成27年10月現在)



医療人育成の取り組み①

地域医療を育てる、新潟の新たな拠点

医療の高度化に対応できる医療人を育てようと、新潟医療人育成センターを設置。高橋センター長に新潟大学の医療人育成の取り組みを語っていただきました。

新潟医療人育成センター



1.新潟県地域医療再生計画に基づき、平成26年8月、新潟大学歯学部総合病院に隣接する旭町キャンパスに「新潟医療人育成センター」が開設 2&3.シミュレーション機器等を使い、実践に即した教育を行なっています

TOPICS

南魚沼市にも地域医療の拠点を設置

平成27年6月、南魚沼市に魚沼基幹病院が開院。ここに新潟大学歯学部総合病院の一部門である「魚沼地域医療教育センター」を設置し、新潟大学の特任教員40名が配置されました。長年に渡りアメリカにおいて先進的な総合医療に従事した経験を持つ医師をはじめ、各分野の第一線で活躍してきた医師たちが、臨床現場で魚沼基幹病院勤務医と協力しながら、総合診療の能力を備えた高度専門医の育成に携わります。また、彼ら特任教員は主に診療を通じて教育・研究に従事するため、医師不足が深刻な魚沼地域の地域医療に大きく貢献することも期待されています。



シミュレーション医学教育を取り入れた、新潟の医療人に有意義な「学びの場」

深 刻な医師不足を抱える新潟県にとって、次世代を担う医療人材の育成は喫緊の課題。その解決のために、新潟県が支援し、地域医療を支える医師・看護師や多職種の医療人が高度な医療技術・専門知識を身につける生涯学習の場として、新潟大学旭町キャンパス内に「新潟医療人育成センター」が設置されました。最大のポイントは、体系化された研修プログラムに基づくシミュレーション機器等を活用した教育。シミュレーショントレーニング・ハンズオンなどの新しい医学教育の手法を用いたカリキュラムで、新潟県の医療を支える医療人のスキルアップを支援します。

「新潟県内で医療に携わる皆さんのスキルアップをサポートするのが、この新潟医療人育成センターです。医学部・歯学部は学部教育Ⅱ学生に対する教育ですが、このセンターはすでに医療に従事する社会人が主なターゲット。結婚などで少し間が空いた方が現場に戻る際の復職支援も行ないますし、行政の中で医療にかかわるご担当者が勉強する際のお手伝いもできるし、そういう医療にかかわる人材育成、学びの場なんです。そんな当センターのカリキュラムの特徴は、「シミュレーション医学教育」と言われる新しい医学教育の手法を取り込んでいることです。今までの医学教育は、まず授業で勉強し、次は臨床の現場——要は実際の患者さんで学ぶ形でした。でも正直、本で学んだそのすぐ次が実戦というのは、相当ハードルが高いと思うんですよ。例えばパイロットを目指す人に、昨日までは本で学んでいたのにいきなり今日、お客さんに乗せて飛行機を操縦しろ。なんて指令は出ないわけで、実際はフライト・シミュレーターで十分に訓練してから飛行機に乗ります。そういうシミュレーション教育をたくさんやって実践レベルまで引き上げる形を医療の世界でもやれないかなと。座学と実際の技術の間を我々のシミュレーションプログラムでつなぎ、サポートしてあげる——それは、新潟県内においては当センターが最初で、かつ今も唯一の場ですね。」

医療人育成の取り組み②

発災〜復興まで支援する災害医療人材の養成

学内外の関係者も巻き込みながら、災害医療に対応する人材を育成。中越地震、中越沖地震と大きな災害経験を持つ新潟からの発信です。



1.新潟大学歯学部総合病院はDMAT指定医療機関となっており、平成27年4月現在、DMAT3隊が整備され、要請があれば速やかに出動 ※DMAT=災害時に派遣される医療チーム 2&3.本院は、災害時は全県を対象とした災害医療の中心的な役割を果たす基幹災害医療センターでもあります。そのため、平時から県内の災害医療従事者に対して定期的に訓練と研修を開催しています

海外の災害にも出動し、外務大臣から感謝状を授与されました



ネパールの被災者の救援活動 (写真:国際緊急援助隊事務局提供)

3月にバヌアツにおけるサイクロン被害に際して派遣された災害医療教育センターの佐藤栄一特任教員(写真右)及び4月にネパールにおける地震被害に際して派遣された同センター中込悠特任助教(写真左)が11月5日に外務大臣から感謝状を授与されました。

高橋 昌 新潟医療人育成センター長
新潟大学歯学部
災害医療教育センター 事業推進責任者

博士(医学)。新潟大学大学院歯学部総合研究科 地域医療推進・教育学講座 特任教授。



医師だけでなく多職種と連携し災害医療に対応していく組織

「一方、災害医療教育センターは、どちらかというと組織なんです。そもそも災害医療って、救急医療の延長ではなくて。救急医療とは、例えば患者さんが救急車で運ばれると、多くの医者が待ち構え、CTなど検査機械や手術室もしっかり準備して……って、ひとつの命を救うためにたくさん人の医療資源を使う形なんです。災害医療は全く逆で、医療資源がごく少ないところに大量の傷病者がやってくるわけです。そのために、内科・外科・耳鼻科など専門が分かれている組織を横断する形で対応するのが災害医療です。そこで、医者も看護師も消防も警察も、自治体も含め、いろんな職種の人と一緒に勉強し、顔の見える関係を作っていく必要があります。その旗を振り、中心になって進めることを我々が担う、と。中越地震や中越沖地震の被災県でもある新潟の人たちが、もっと研究して発信しなきゃいけないと思っています。」

学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですよ! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍をお届けします!!

CIRCLE PICK UP!

スピード感と迫力は圧巻
ラグビー部



↑強い絆で結ばれた74名の部員
楽しみながら切磋琢磨している集団

信頼する仲間と
全ての力を出して
勝利を掴む!

**チーム丸のプレイで
全国大会を目指す!**

「毎年1月に行なわれる全国大会に向け、週4回は五十嵐キャンパスのグラウンドでチームの練習を、そのほかの日には各自でウエイトトレーニングなどに励んでいます。チームのみんなが積極的に意見を出し合ってメニューなどを考え、工夫しているのが部員同士の仲が良いのも魅力ですね。昨年は全国大会の出場まであと一歩のところまで敗れてしまったので、今年こそ出場できるように練習していきたいです」



部長 野口洋之さん(人文学部4年)

CIRCLE PICK UP!

自由な表現を楽しめる
美術部

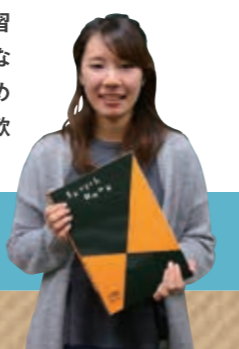


↑さまざまな学部から「美術が好き」という
思いで集まった部員は現在35人

モデルをしっかり
観察しながら
描くのが大切!

**感性と技術を磨き
作品制作にいかそう**

「美術部では、火曜と金曜の週2回活動しています。普段は、クロッキー(短時間でデッサン)などを教室で行なっていますが、月に1、2度は公民館で講師の方からデッサンを教えてもらっています。私たちは春展、夏展、新大祭、黎明祭に出展するので、日々展覧会に向けての練習や作品制作をしています。絵だけでなく、粘土や映像など幅広く美術を楽しめるので、美術好きな人も初心者も大歓迎です」



部長 齋藤末希さん(人文学部2年)

CAMPUS TOPICS!

町がアートにつつまれる“うちのDEアート”が開催されました

本学教育学部芸術環境創造課程の学生とアーティストや内野町の方々による新潟市西区内野町を舞台としたアートプロジェクトである「うちのDEアート」が9月26日(土)から10月11日(日)にかけて新潟大学WeeK2015の一貫として開催されました。今年は、「うちの栄養補充計画」をテーマに、作品展示や来場者参加型のワークショップイベントなど28の企画が実施され、親子連れを含む多くの方々が様々なアートに触れたことで、笑顔に溢れた内野町は、テーマのとおり活気に満ちていました。



練習の成果を存分に発揮し3種目で優勝! 第64回関東甲信越大学体育大会

関東甲信越地区の国立大学(13大学)による総合体育大会“第64回関東甲信越大学体育大会”が8月16日(日)~31日(月)に行なわれ、今年は全17競技に総勢約3,300名の選手が参加し、各競技で熱戦が繰り広げられました。本学は、16競技に約300名の選手が出場。剣道(男子)はなんと45年ぶりの優勝を果たし、剣道(女子)並びに水泳(女子)は見事2年連続優勝をつかみ取りました。その他にも、7種目で準優勝、4種目で第3位を獲得するなど、学生たちは日頃積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮し、優秀な成績を収めました。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介 — 教育の現場 —

第13回 人文学部

橋本博文 教授
齋藤瑞穂 助教

Profile
橋本教授の専門は日本考古学。古墳時代を中心に古代国家形成について研究。実習は齋藤助教とともに学生を指導。



考古学実習D

**発掘実習は埋蔵文化財への理解を深める一方
卒業後の実社会で役立つ能力も育てる**

主に人文学部2年生を対象にした野外発掘実習。遺物の洗浄・注記・接合や図面作成、写真撮影など、発掘の資料整理や報告書にまとめる一連の工程を学ぶ「考古学実習A・B」、発掘前に必要な測量器材の使用など方法を学ぶ「考古学実習C」と関連する授業。「今年は8月に北関東で古墳時代の豪族の館を、9月には新潟市の牡丹山諏訪神社古墳を調査しました。後者は県内で初めて円筒埴輪が見つかった古墳として注目されています。発掘経験やノウハウを持った学部3・4年生や院生に参加してもらうことで、

実習の内容がより深くなっていると思います」(橋本教授)。実習は埋蔵文化に対する理解を深め、将来の研究者を育てる目的もあるが、橋本教授は考古学の楽しさや発見を共有する喜びを学問を通して伝えたいと語る。「発掘はある意味でまさに肉体労働です。粘り強さはもちろん、組織で行動する力やリーダーシップ、スケジュール等のマネジメントなど、実社会でも求められる能力が必要になります。実習で培ったチームワークなどは、学生たちが考古学以外の分野に進んだとしてもきっと役に立つと考えています」(齋藤助教)。



STUDENTS VOICE

「この実習では、牡丹山諏訪神社や権現山遺跡などで実際に発掘作業を行ないました。発掘は土を掘るなどの体力はもちろん、繊細な作業を続ける集中力が必要で、大変なこともあります。誰も見ていなかったものを自分たちの手で発掘できるという部分に面白さや魅力を感じています」



平形杏里さん
(人文学部3年)



Gregory Hadley 教授

Profile
専門分野は英語圏文化論。英語教育の社会学について研究



英米文化論B

**言語学や文化研究などの分野を通し
西洋文化の理解につながる学問の橋をかける**

差別や人口、法律などに関わる社会問題や様々なイギリス文化の側面を通して、文化的接点や相互理解のきっかけを模索。講義中にはシリアスな部分も見せる反面、研究室では日本語のジョークも飛ばすハドリー教授が教壇に立つ。「新潟大学において海外の大学で勉強するような環境を作り出すことを目指しています。西洋言語文化プログラムの、英米文学と英語学を包括的するエリアを作りたい。言語学や文化研究などの様々な分野を通して、学生の西洋文化全体の理解につながる学問の橋をかけていきたい」と語る。

講義は基本的にすべて英語で行われ、学生が英語の文献を読んだり、ディスカッションをしたりする機会を積極的に作っている。また、スクリーンを用いて視覚的理解を促す工夫が凝らされている。「他国の文化研究の際に大切なのは、その国の文化や社会を尊重し、敬意を払うこと。また、好奇心旺盛であること。自分の文化との共通点や差異を見出し、相互間に関わりを作る努力をすることです」。オックスフォード大学との連携プロジェクトなど、国際理解と交流のチャンスを作ろうとする試みは、これからも注目したい。

STUDENTS VOICE

「イギリスが抱える差別や歴史的な問題、それらを解決するための現在の取組などを学んでいます。講義中の発言も英語です。語学の面でも非常に刺激になります」(瀬倉) 「イギリス文化の理解はもちろんですが、講義を英語で受けられ、ディスカッションができる貴重な時間です」(池村)



右 瀬倉隆博さん(人文学部1年)
左 池村 綾さん(人文学部3年)

研究課題

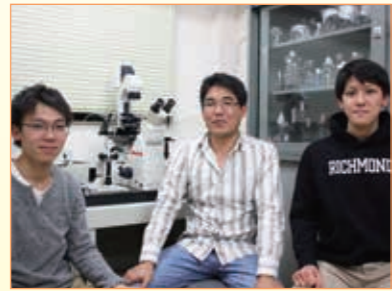
野生アカネズミの生殖細胞を用いた高度利用

自然科学系(農学部農業生産科学科) 山城秀昭 助教

野生アカネズミを指標に、放射線の影響や繁殖のメカニズムを研究

動物生殖学分野の研究室で、現在、野生アカネズミの生殖細胞を用いた研究も行っている。山城助教は、2011年の東日本大震災以降、原発20キロ圏内の野生動物への放射線の影響を調査すると同時に、アカネズミの繁殖サイクルや繁殖機構なども詳細に調べている。季節繁殖性という特色を持つ野生アカネズミにおいて、精子・卵子の生殖細胞形成のメカニズムを明らかにすることは、野生由来げっ歯類の新たなバイオソースとしての遺伝子資源化や実験動物化、畜産分野では牛、豚、羊、ヤギなど優良種雄の精子利用の効率化と改良、医療分野では男性不妊患者の精子形成促進治療などへの貢献が期待される。ちなみに今回、取材で訪れたら、研究室の瀧野さん(大学院2年)と伊藤さん(農学部4年)が成果を説明してくれた。彼らはこの11月、北信越畜産学会富山

県大会でも研究成果を発表したメンバーだが、こうして学生たちと一緒に研究しようとする姿勢が印象深い。「研究の面白さは、やっぱり「未知との出会い」。何か発見があるからこそ充実感を味わえる——それを学生にも感じてもらいたいと、日々、挑戦しています。「顕微鏡で見ていて「うわっ!!」と鳥肌が立つ瞬間がある。それこそ研究の魅力だなと」。そう語る学生2人の笑顔も印象的だった。



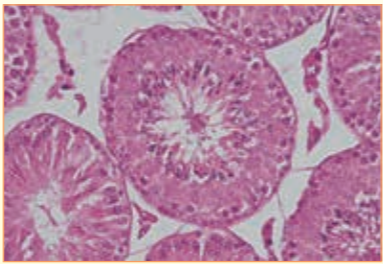
↑研究室のメンバー、瀧野祥生さん(左)と伊藤洵さん(右)

山城秀昭助教

博士(農学)。専門は動物生殖学。



↑森の中で生活する野生のアカネズミを捕獲して研究



↑野生アカネズミにおける精巣の精細画像

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

人文社会・教育科学系(法学部) **田巻帝子 准教授**

「弱者家族」の司法アクセスに関する日英比較研究～仲介者の視点から～

性的マイノリティに代表される「弱者家族」に有効な司法アクセスを探る

法的解決が必要なトラブルを抱えた際、人々が法というものをどう考え、行動し、法的サポートに辿り着くのか。その道のりを「司法アクセス」とし、特に法にアクセスしにくい状況に在る「弱者家族」でいられるのが副題にある仲介者。これは准教授による用語で、離婚経験者や精神・身体に障害を持つ人、外国人などで家族問題を抱えている人などを指す。「弱者」を測る要因は経済的、身体的、健康面、家族的形態、学歴など多様で複合的。私はその中でも見落とされがちな同性愛者などの性的マイノリティだと考えました。彼らは表面的には問題を抱

ア団体で、性的マイノリティの置かれている状況の報告や、彼らを弁護士などと繋ぐパイプの役割を果たしていると思われま。弱者家族」が抱えている問題とその解決に対して、誰がどのように働きかけていけばいいのか。有効な司法アクセスについて、カナダやイギリスの事例や現状と比較しながら探っていきます。

研究課題



田巻帝子 准教授

博士(法学)。法社会学、家族法、ジェンダー論など多岐に渡り研究。



↑法やルールはその社会をスムーズに機能させるもの。それぞれの社会にはそれぞれの法とルールがある。ルールは多様であり、作られるもの。時にルールと見えても本来許されないものもある

シリーズ **「恩師と語ろう」**

恩師 **齋藤 忠雄 名誉教授**
元・新潟大学経済学部教授

教え子: 中澤午良さん 小林栄子さん 荒川世都さん

撮影場所/新潟大学図書館



齋藤 忠雄 名誉教授

専門は経済学/財政学。1947年、岩手県生まれ。1970年に東北大学経済学部卒業。1991~2012年 新潟大学経済学部教授。経済学博士(東北大学)。

——まず、齋藤先生との一番の思い出を聞かせてください。
中澤 僕は、齋藤先生からご指導を受けたにもかかわらず、院の修士論文が相当自由な内容になってしまい、手厳しい意見を頂いたことを憶えています(苦笑)。でも最終的には通して頂いたの...やっぱり、器の大きい先生だなと笑。

——卒業後も互いが会える機会を多々設けているとは、とても素敵な関係ですね。
齋藤 荒川さんは私の最後のゼミ生のひとり。だから、たまたまだけど、今日の3人は年齢も進路も良い具合に分かれていて、でも、みんな仲はいいですよ。「齋藤ゼミ便り」というのを作ってきたこともあり、ゼミの卒業生の連絡先はほぼ分かっているし、卒業後も定期的な会を企画してつながらりを持っていくという。2年に一度、ゼミ同窓会も開いていますし...実は今日もこの後、私の家でみんなでコンパをやるんです(笑)。



↑小林さんが持参された最新の「齋藤ゼミ便り」。中を見る約60ページに渡って原稿がぎっしり!! 巻末にはゼミ卒業生の名簿もズラリと掲載

たのが財政学の講義だったんですけど、一回目の授業の際、レジュメとして何十枚ものプリントが配られてきて、それだけで真っ青になり(苦笑)。でも、何回かお会いするうちに、とても気さくで人との出会いと交流を大事にされる先生だと分かったし、それが齋藤先生ならではだと感じましたよね。
荒川 私は、一昨年の春に卒業したんですが、バツとすぐ思い出されるのは、先生がご退官される時、部屋の掃除をお手伝いしたんです。それなら、とにかく先生の部屋の本の量にびっくりしたのと...。今までこれらを全部教えてくださったんだなとか思ってたにしみりしちゃう。それが一番の思い出ですね。

——卒業後も互いが会える機会を多々設けているとは、とても素敵な関係ですね。
齋藤 荒川さんは私の最後のゼミ生のひとり。だから、たまたまだけど、今日の3人は年齢も進路も良い具合に分かれていて、でも、みんな仲はいいですよ。「齋藤ゼミ便り」というのを作ってきたこともあり、ゼミの卒業生の連絡先はほぼ分かっているし、卒業後も定期的な会を企画してつながらりを持っていくという。2年に一度、ゼミ同窓会も開いていますし...実は今日もこの後、私の家でみんなでコンパをやるんです(笑)。

でも、そのために大阪や札幌などからも人が集まってきて、「こんな遠くから来る人もいるんだ」と驚きます。しかも皆さんすごく楽しみにしていて——。それも先生のお人柄でしようね。今、どんな生き辛くなっている世の中だからこそ、みんなで集まって話をしたり振り返る機会があるのかなど。
荒川 私も、さっきのフェイス・トゥ・フェイスの話のように、先生との出会いをきっかけにいろ

でも、そのために大阪や札幌などからも人が集まってきて、「こんな遠くから来る人もいるんだ」と驚きます。しかも皆さんすごく楽しみにしていて——。それも先生のお人柄でしようね。今、どんな生き辛くなっている世の中だからこそ、みんなで集まって話をしたり振り返る機会があるのかなど。
中澤 あと、この新潟大学の図書館のフロアに有志が集まり、「現代経済を語る会」というのもやっているんですよ。社会人になると勉強する機会が

なかなかないので、それも先生に感謝、ですよ。
齋藤 まあ、気楽な集まりなんだけどね(笑)。ちなみに、中澤さんは長野県出身で——でも新潟が好きになり、新潟県庁に就職したって人だから。
中澤 ...新潟に来て、良かったです(笑)。
——かく言う齋藤先生も、実はご出身が岩手県ですが?
齋藤 まあ、僕も定年後はどろろ風になんて思っています。こういう風になんて思っていますよ。あと、こうして今も図書館を使わせてもらったり、大学とも良い関係が続いているので...僕も新潟を離れないかな(笑)。



中澤午良さん
2004年 新潟大学経済学部卒業、2006年に大学院 現社研博士前期課程を修了。



小林栄子さん
都内の某大学卒業後、新潟大学に。2011年、大学院 現社研博士前期課程を修了。



荒川世都さん
2013年、新潟大学経済学部を卒業。齋藤先生にとって最後のゼミ生のひとり。

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります!

全学同窓会設立10周年 記念行事の開催

全学同窓会設立10周年記念行事(記念講演会、記念式典及び祝賀会)が、平成27年10月24日(土)ANAクラウンプラザホテル新潟において開催されました。記念講演会では、発酵学の第一人者である小泉武夫氏(東京農業大学名誉教授)が「発酵食品の神秘」と題して講演を行いました。ユーモアあふれる軽妙な語り口で、世界各地の発酵文化の



紹介や微生物の神秘的な世界に、集まった250名を超える聴衆は笑顔で聞いていました。引き続き記念式典及び祝賀会が開催され、200名近くの同窓生が集い、新潟大学の更なる発展を応援するとともに、お互いの親睦・交流を深めていました。

また、記念式典では、本学HPからいつでも母校のキャンパスの様子が確認できるWebカメラと今年度新設されたトレーニング施設内に配置するトレーニング機器をご寄附いただくにあたり、多和田同窓会長から高橋学長に目録が手渡されました。

2015ミス・アース・ジャパン山田彩乃さんが 母校に凱旋!~学長に表敬訪問~

世界4大ミスコンテストのひとつでもあるミス・アースにおける今年の日本代表に本学卒業生の山田彩乃さんが決定しました。9月16日(水)には山田さんが母校である本学を訪れ、高橋学長と鈴木教育学部長にミス・アース・ジャパン決定の報告と12月にウィーンで行われる世界大会に向けた抱負を語ってくれました。ミス・アースは、地球環境保全に対する意識啓発を目的に開催されるコンテストということもあり本学在学中は教育学部(理科専攻)に在籍し昆虫生態を学び、中学・高校の理科の教員免許を持つ、いわば“理系女子”の山田さんにとって、学生時代に培った経験がこのコンテストで大きく役立っているとのこと。学長から「日本にとどまらず、世界の舞台でもぜひ活躍していただきたい。頑張ってください」と激励の言葉が贈られました。



教職大学院を設置 ー新潟地域における 学校現場の教育課題に答えるー

本学では、新潟県教育委員会及び新潟市教育委員会との連携・協働により、平成28年4月に教職大学院を設置することとなり、9月16日(水)に記者会見を行いました。本教職大学院は、教員養成の先端的役割を担うことを目的に、確かな理論と優れた実践的能力を備えたスクールリーダーの要請、学校づくりの有力なリーダーとなり得る指導力・展開力を備えた新人教員の養成を通じて、地域及び学校の教育力の向上に貢献することを基本理念とし、新潟地域における学校現場の教育課題に答えるため、「高度な教育実践力」「特別支援教育の専門性」「学校改革を推進する実行力」の3つの力を育成します。



新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

学生の修学支援、国際交流活動等に活用しています。
※税法上の優遇が受けられます

●基金ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新大サポーター連携推進室

電話:025-262-5651(受付時間 平日9:00~17:00)

FAX:025-262-7796

E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



「新潟大学カード」入会受付中!

VISA付きの国際カード「新潟大学カード」。
卒業生と母校の絆を、いつもポケットに!

入会受付中

●新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話:025-262-7891

(受付時間 平日10:00~15:00)

E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学
季刊広報誌

六花

RIKKA
2015.Autumn
No.14

発行/平成27年11月 編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

電話/025-262-7000 FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook <https://www.facebook.com/niigata.univ>

編集後記

木々の色もすっかり変わり、新潟は冷え込む日も増えてきました。今号は医歯学総合病院を特集。卒業とともに新潟を離れた同窓生の方は、現在の姿にさぞ驚かれたことと思います。現在のキャンパスの様子も本学のfacebookに掲載しておりますので、ご覧いただくとともにぜひ「いいね!」もクリックいただけると幸いです。(K.I)

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙を
リサイクルできます。